

事業所における自己評価結果

公表:令和4年3月10日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの空間が取れるよう、机や椅子の配置を工夫し、適切な空間が確保できるようにしている。 定員としては適切だが、親子日や親子クラスになると狭く感じる。
②	職員の配置数は適切である	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 国の基準より多い配置になっている。 7~8人のクラスに3人体制で支援しているので多いが、その年の職員の経験年数によっては、バランスが悪いときがある。 状況によっては人手が足りないときもある。(職員の休み)
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 段差がなく、扉を開けやすいように引き戸になっている。 後ろの壁面を季節が感じられるようにし、前面はシンプルにして集中しやすいように設定している。 子どもに合った環境に設定している。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	2	<ul style="list-style-type: none"> 給食後、おやつ後、療育後に掃除をしている。 活動に合わせて部屋をかえ、適切な空間を利用している。 和室や静養室の整理整頓がされていないときがある。→物を置きすぎないようにし、常に整理する。 クラスの床が日焼けで剥けている部分がある。→定期的にワックスを掛けているが、今後は頻度を増やす。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎年会議であげて取り組んでいる。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> センターのアンケート、保護者会のアンケートを毎年行い、何年かに1度は第三者評価を受けている。 アンケートで出た意見は会議で周知し、検討・改善をしている。
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすくまとめて公開している。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果が事業所の重点課題(目標)に繋がっている。
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> 園内外の研修をしている。園外は伝達研修をしている。 研修はあるが、どのような研修があるかは把握しきれていない。→周知を心がける。

⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	・アセスメントシートなどを用いて保護者と話し合い、子どもの姿を確認した上で作成している。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	0	・アセスメントシートを使用している。毎年見直しもしている。今後も見直しをし、子どもの姿に合わせて改善していけるとよい。
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	8	・3ヶ年計画でプロジェクトを組んでおり、今年度が3年目で検討中。来年度より使用する。
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	・計画をして支援している。 ・担任間でポイントを共有して行っている。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	・クラス間で打ち合わせをして立案し、その後上司が確認している。また、チーム会議で他クラスと情報共有をしている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	・“やってみよう”と期待できる工夫をしている。 ・様々な内容を取り入れ工夫している。いつもと違うチームで検討できるとより良い。 ・チーム会議で研修を行い、固定化しないようにしている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	12	1	・個別と集団の両方向から考えている。 ・個別で伸ばしたいスキルと、集団で伸ばしたいスキルを分けて考え作成している。 ・個別活動という名では行っていないが、どこでどう取り組んでいくか決めて行っている。 ・不定期だが行っている。 ・作業療法士による個別活動はあるが、クラスではできていない。→個別活動という括りではなくても、毎日の遊びのなかで、少しずつ1対1の時間を取り、積み重ねられるようにしていく。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	3	・療育後振り返りを行い、そこで翌日の打ち合わせもやるので、朝は確認のみをしている。 ・非常勤職員（パートの職員）の出勤時間や子どもの登園時間によって、十分できないときもある。 ・登園前に時間が取れないときは、前日の振り返りでしっかりやれるとよい。朝の環境整備のときに行うのは適切ではないと感じる。

⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1 2	1	・非常勤職員(パートの職員)を含めて療育後に30分振り返りを行っている。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1 3	0	・毎日行い、振り返って改善できるよう話し合っている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	1 2	1	・年3回モニタリング(評価反省)を会議で確認している。 ・日々の姿の記録用紙にも評価を記入する欄がある。 ・定期的に行っていないので、見直しの機会が薄い。→定期的に行っているの、意識できるよう周知する。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1 2	2	・内容が分かる人が参加している。 ・児童発達支援を利用する際にできていない。→実働的に難しいため、必要に応じて行っていく。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1 2	1	・市役所の子ども未来課、保健センター、保育園、小学校、家庭児童相談室と連携している。 ・連携はしているが、もっと細かく連携できるとよい。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1 3	0	・引継ぎ書類を作成し、情報共有をしている。 ・移行先の先生に見に来てもらっている。
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1 2	1	・引継ぎ書類を作成し、情報共有をしている。 ・アフターフォローで卒園後もやり取りしている。 ・見学に来てもらうこともある。 ・共有しているが、理解してもらえていない部分があるので、より相互理解が必要だと感じる。
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	5	・5市5町交流会(研修会)や通所施設現任研修会、視察研修会などに参加している。 ・研修にいけなくても研修報告を読んで学んでいる。 ・研修を受けられる人と受けられない人がいるので、全体でできるようにするべき。→新型コロナウイルス感染症予防で2年間開催されていないが、毎年現任研修は全員参加している。他の研修は、毎年順番に受けられるよう組んでいる。経験のない職員も増えたので、そのことを周知していく。

				<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受けた人がフィードバックをできていないので、研修報告で共有できるとよい。 ・他の児童発達支援事業所と連携する機会が少ない。→現任研修が開催できたときに機会を作っていく。
⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	1 2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナでできないこともあるが、保育園が開催している施設開放や見学、交流がある。 ・年長児は地域交流がある。 ・把握できていない。→周知してく。
㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・センター長が参加している。
㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時に伝え、定期的に懇談を行い共通理解を図っている。
㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に講演会を開催したり、クラス懇談会で行ったりしている。また、外部の勉強会の情報も伝え掲示している。 ・支援を行い、必要に応じて組織的に話し合っている。 ・ペアトレやコーチングという名では行っていないが、その要素を取り入れて、保護者自身が気づいたり、できることに目を向けたりできるような支援を提供し、一緒に考えている。 ・親子クラスでは分離再会プログラムやグループセッションを行っている。 ・上司や先輩に教えてもらいながら対応している。 ・ペアプロやペアトレとしてはやっていない。 ・支援しているが、経験の浅い職員と経験豊かな職員の差がある。 ・今後研修などで取り組めるとよい。→検討していく。 ・把握していない。
㉔	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1 1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に説明している。 ・時間内に丁寧に説明しているが、説明の量が多いのもう少し丁寧にできるとよい。→工夫できるよう考えていく。
㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・行っている。
㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・随時行っている。 ・個別懇談会や親子活動日に日々の姿を伝え、悩みや不安に対して相談にのり、家庭でできることを一緒に考えている。

				<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に懇談を行い、全員と話をできる機会を設けている。 ・上司や先輩に相談しながら対応している。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1 2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内で喜びや悩みを共有できるように仲介している。 ・クラス懇談会などで支援している。 ・父子参観を年2回行い、父のクラス懇談会も行っている。 ・大切にしているが、保護者同士の連携の支援に入ることがクラス懇談会などの機会しかない。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情要望の申し出をするシステムがある。 ・迅速かつ適切に対応できるように努めている。 ・申し入れがあったときは、懇談を設けるようにしている。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回園だよりの配布や月1~2回のフェイスブックへの掲載、年度末に来年度の年間行事予定表の配布をしている。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・注意して行っている。やむを得ず持ち出すときは届け出をしている。 ・クラス毎にファイリングし、整理して保管している。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	1 3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを配慮するようしている。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、2年行われていないが、福祉健康フェアを市と協同で開催している。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため現在は月1回だが、誰もが利用できるおもちゃ図書館を開催している。本来は毎日開催している。 ・0Gや0Bが参加する夏まつりはあるが、地域の方が参する機会がない。→福祉健康フェアに地域の方も参加してもらっているが、2年間開催しておらず経験していない職員も増えたため周知してく。 ・把握していない。
④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1 1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの見直しを行っている。 ・親子日に避難訓練をしている。不審者訓練は職員だけになるが、他のマニュアルも含め各クラスにマニュアルを置いて、いつでも保護者が見られるようにし、周知している。 ・マニュアルはあるが、実際は動きにくい。 ・保護者へ周知ができていない。→クラスにあるマニュアルを見もらうように声を掛けることを、職員が意識していく。
④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	1 1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は定期的に行っている。 ・救出訓練ができていない。→今後計画していく。

④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	13	0	・連絡会などで適宜共有している。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	0	・医師の指示書を基に対応している。 ・半年ごとに保護者とアレルギー面談をしている。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	・療育後の振り返りと毎日の連絡会、月1回会議で共有し、再発防止に努めている。 ・ファイリングして施錠できるキャビネットに保管している。 ・事例集があるか把握していない。→事例集はあるので、しっかり周知していく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	1	・法人内の研修だが、毎年行っている。 ・虐待についての研修が少ないので、経験の浅い職員と経験の豊かな職員の知識量に差がある。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	4	・マニュアルはできており計画にも記載しているが、現在まだ検討途中で模索中。今年度完成予定で完成版を来年度より使用する。